

この2年、ご縁のあった産地を簡単に紹介します。主に「公府確認会」という監査の仕組みの中で、消費者代表の一人として参加しました。どの産地も個性豊かで、素晴らしかったです。書類を見て、園場を見て、話を聞いて... 観光とは縁のない旅ですが、移動中に目にする耕作放棄地や荒れた山々の姿には胸が痛みました。
↓(下へ)

JA庄内たがわ・庄内協同ファーム (山形)

心穏やかに文化をゆっくりと育む土地柄と感じました。鳥海山、月山に抱かれた信仰の地は、2002年の地震は影響なかったけれど、昨年の台風では大打撃を受けました。鴨を放つ田にあった豊作祈願のお礼は、村の当番さんが1週間かけて兩名山に登り、11日だけくるものだそう。伝統を守る大変さはありながら、太鼓に汗流す若人達の姿に、地に足の着いた生活に支えられて生きる人達の力強さを感じました。

白川たまご生産組合 (山梨)

山裾の小さな村で、平飼いの卵を生産しています。パルシステムという50万強の生協相手に供給できるのは、予約登録制になっているからでしょう。鳥インフルエンザがあたり、大変なこともありますが、安定した生活の下、美味しい卵の研究に励まれる日々が、とてもうらやましく感じられました。

勝沼平有機果実出荷組合 (山梨)

おいしいぶどうの産地です。パートで出荷作業する女性の最高年齢は82歳！豊かで幸せな人生です。ぶどうを使った創意工夫料理もとても楽しそうでした。

① 'アピールファームさみす' (長野)

名前の通り、りんごの産地です。ここの「名物」は女性陣の勢いと感じました(笑)。力仕事が多い農業の主役は男性が任ずるのが今も主流のようですが、そこは役割分担と割りきり、自ら責任を持って農業の主体と存続するという意志を込めて、主導し、勉強会を開き、肥料設計なども参加します。主催者の人柄からか、本音のぶつかりあった公府確認会で、消費者の責任立場を考えさせられた会でした。

② 野菜くらぶ (群馬)

団体でリーダー次第って、しみじみ感じられた産地でした。カリスマ型のリーダー、経営の達人といったタイプの人が多く、この代表の澤潤さんは、おひろの下型。みんなの気持ちを盛り立て、一つにまとめて勢いを作っていくのです。能力というよりは、やはり人柄です。「一人ひとりがリーダーである時代」輝き協力しあう姿勢に感動を覚えました。野菜も個性を大切にされた、立ち回りの味がある気がします。

長有研・南有研 (長崎)

段々畑の農業は北海道の近郊にあるものです。緻密に積まれた石垣に、不思議なものが残っています。人って、オモロイです。地理的に近く、同じ有機農業をしながらも、「長有研」と「南有研」のこのグループは雰囲気もやり方も全く違って見えます。研究熱心で真面目な前者と、陽気に農業を楽しむ後者。どちらか魅力的だけど、「効率のために合併したりは絶対しないだろうナ...」

↓ (上から)

住む人があってこそ土地の豊かさ。土地の資源を循環させ、活かす。そして自分達も生かされている。人間の生活の原点を想いました。天災は大変、価格変動も大変だけれど、潔い生き方が素晴らしいです。

ジヨイファーム小田原 (神奈川)

みかん産地はどこも大変のようです。今は年中美味しいフルーツが売られていて、どうしても消費が伸びません。その中で、キウイ、ブルーベリー(共に無農薬)、玉ねぎ、菜花と栽培の手も広げ、後継者の育成に励んでいます。小田原は首都圏の通勤圏であるのかかえって難しいのが、魅力ある土地柄なのに休耕地が結構あります。ゆめコープと共同でNPOを立ちあげて年間の農業入門コース(畑/田んぼ)を実施しています。可能性を育てていくことは決して楽なことではないと、学ばせていただくことが多い産地でした。

緑耕舎 (千葉)

オーソドックスな米産地です。無農薬米と減農薬米を作っています。ゆめコープでは田植え、稲刈り、草取りの年間交流をしていた産地が2004年度まで3産地ありましたが、その中で唯一の帰り可能な産地でした。近隣のよしみで、冬にはしめ縄作り交流もありました。私見ですが、恵まれた産地というのは比較的経営などが安定していて、かえって進取の取り組みに向かいにくい気がします。それにしても利根川に育たれた鯉と食用カエリは立派！の一言の壁っぷりでした。

産地の尺は3/4はたたとともに偉い
今は新鮮な水に洗っています

長いもの栽培法をきれいな田んぼで見せて下さいました (TAおはな)

野付漁協 (北海道)

"魚のかあさん"と呼ばれる婦人部の人たちが、産期に自慢の海産物を持って来訪され、料理講習会を行っています。次を堪能はアサリがざくざくと出て、海には臭がひんぴんとはねる... 冬の海は寒いし、楽なことばかりではないでしょうが、朗らかな笑顔に生活への満足感にしみ出ています。魚付林を育てるための植樹をします。

ここは行ってなくて、来訪されたときに一緒にさせていただけました。

JAおとふけ / 大牧農場 (北海道)

北海道はスケールが大きい。1枚の圃場が、ナント5haです(本州なら、多少大きくても1ha程度でしょう)。20代の後継者に農業を選んだ理由を聞いたら「機械が好きだから」だそう(笑)。かつて開拓民が切り開いた農地141戸分が、今では40戸しか残っていないとか(大牧農場近辺)。農産物輸入自由化の影響が大きかったようです。

JAいわて花巻東和町支部 (岩手)

JA組織も一枚岩ではないんですね。ここで知りました。11支部あるなかで2002年当時環境保全型農業に取り組んでいたのは東和町支部のみ。中山間村で、地の利は決してよくありません。が「宮澤賢治を生んだ」地だけあって、自主独立、創意工夫の精神を強く感じました。町営のおしゃれな宿泊施設やファーマーズマーケットが整備され、次の時代を常に探り続ける気概を感じました。

和郷園 (千葉)

農業は魅力いっぱい、可能性の豊庫! と心から感じたのが、この地でした。平均年齢35歳、86名(2003年当時)で構成される農業集団です。「収入目標を一件一億円」と言ってくる強気(でも、現在3軒が達成済みとか)。成田空港に近い利点を活かして野菜の輸出をしたり、加工食品で「直販店を立ち上げたり。『夢でぶくらむ農業』にちょっと驚きました。

キムチの種地-井とか味の濃い野菜の味が11ヶ所の産地には遠くまで届く

